

## はじめに

医学界を舞台にした Erich Segal(エリック・シーガル)の長編小説に、*Doctors* (Bantam Books, 1989. 邦訳は『ドクターズ』(角川書店, 1993))があった。英語の言語と文化を研究してきた編著者は、そこに登場した Code Blue(コード・ブルー[心肺蘇生術を行う医療チームを招集する暗号表現])のような医療分野独特の英語表現に出くわしたことから興味をいだいて、この分野の資料の収集と研究に取り掛かってから長い年月が経った。また、1994年に米国NBCテレビで放映が開始された医療ドラマ *ER* (邦題は『ER 緊急救命室』)では、Chem-7(ケム・セブン[血液化学検査の指示])とか、*weak and dizzy*(弱って目まいがしているだけ [緊急性のない患者の主訴を示す])とか、*champagne tap*(シャンパン・タップ[医学生が初めて成功した腰椎穿刺(よんじつ)])といった医療分野の英語表現が次々と出てきて、その多様で奥深い言語に驚嘆した。そして、これらを理解することは英語の言語と文化を理解するうえでは重要なことであるとの確信を強くしたところであった。

最近では、英米の新聞でも‘Health’欄で医学用語や薬の名前をごく当たり前のように目にする。米国の女性向けの *Good Housekeeping* 誌を開くと、医学用語を当たり前のように使って効能書きが書いてある薬の広告が少なくない。あるいは、医学小説やノンフィクションを読んで医学用語に接することも当たり前になっている。そうは言っても、すぐに分かるような世界の言葉ではない。米国の Medicaid 関係者が、健康に関する資料はもっと易しく分かり易い言葉を使って書き、小学校4年生から6年生までのリーディング・レベルでも理解できるようにすべきだと要請して、Health Literacy Action Plan (ヘルス・リテラシー行動計画)も生まれた。*The Wall Street Journal* 紙が“Taking medical jargon out of doctor visits”(診察の場から医者言葉を排除する)という記事を掲載したこともあった(2010年6月6日)。

ところが、これとは別に、医療従事者が使う仲間言葉で、医療俗語 (medical slang) とかメディカル・ジャーゴン (medical jargon) と呼ばれているものが多くあり、英米の俗語辞典に収録されているものも少なくない。英国の BBC News が、医者が患者をこけにするために作った創意工夫を凝らした言葉 (inventive language) は消滅しつつある、という内容の記事を配信して一般の人々の関心と呼んだことがあった (2003年8月13日)。そこでは、略語 (abbreviation) や頭字語 (acronym) から、奇抜な発想から作られた言語表現をいくつも取り上げて紹介した。いかにも医学用語らしく聞こえる CTD [患者の死期が近いことを指す略語]、GLM [診察に連れて来た子どもの母親を指す略語]、PFO [酔っ払って転倒して担ぎ込まれた患者を指す略語] などの、患者や患者の容態を揶揄 (あざわら) する語がある。裁判所に持ち込まれたある医療訴訟で、TTFO とカルテに書いた医師が、裁判官からその意味を問われてとっさに “To take fluids orally” (経口で水分を補給する) のことだと返答して難を逃れたということがあったというが、本当のところは “Told to fuck off” (とつとと病院から失せろと宣告された) という患者をののしる略語だったというから呆れる。あるいは、digging for worms (ミミズを捜して地面を掘る) とは「静脈瘤」のことであるとか、空港でもないのに病院内の departure lounge (出発ロビー) とは「老人専用病棟」を指す言い方だとか、handbag-positive (ハンドバッグ陽性) の患者とは「入院する羽目になった高齢の女性患者」のことを指すなどと、一般の人にはまったく理解不能な言葉の例も紹介されていたが、しかしこれらが消滅してしまった気配はない。それどころか、現在も病院内にしっかりと根付いている。カナダのトロントにある Mount Sinai Hospital の救急医 (emergency physician) で、CBC ラジオ番組 *White Coat, Black Art* (『白衣と黒魔術』) の人気司会者 Brian Goldman (ブライアン・ゴールドマン) が「病院俗語の暗号を解読する」(cracking the code of hospital slang) として書いた *The Secret Language of Doctors* (HarperCollins, 2014) が出版されて、医療関係者の間で使われ

ている興味津々の「医療俗語」が数々紹介されると、大きな反響を呼んだところであった。

われわれ英語を学習する立場の者にとって理解が困難なもの、医学用語や医療俗語だけではなく、医薬品や医療器具を含めた固有名詞、引用、諺などにも及ぶ。そのため、いわゆる“Medspeak”と呼んでよいこれら医療世界の言語文化を調査・研究し、日本初の Medspeak 辞典として編んだのが『英和メディカル用語辞典』（講談社インターナショナル、2000）であった。その後も『医療英語がおもしろいー最新 Medspeak の世界ー』（医歯薬出版、2006）や『Medspeak の言語と文化辞典』（研究費助成出版、2011）などを上梓してきた。

この辞典は、その後の調査・研究を踏まえて、新たに編んだものである。

なによりも、本辞典出版の意義をお認めくださった株式会社三省堂と同社辞書出版部の柳百合さんに感謝申し上げる。特に、外国語辞書第一編集室の村上眞美子さんは、この特殊辞典にいち早く注目してくださり、『犯罪・捜査の英語辞典』（三省堂、2012）に引き続き、原稿の内容精査はもとより、整理から入力、校正、索引の作成など言葉では言い尽くせないほどのご尽力をいただいた。その的確な判断と、助言と、緻密で困難な作業がなければこの辞書は出来上がっていなかった。

調査や検討を重ねたものの、深い医療分野に関わることであって、門外漢であるがゆえに思わぬ不備や誤りがあるかもしれない。また、その後も収録すべきであると思う項目が次々と出てはきているが、ここでいったん纏まった形にしておきたい。この辞典を手にとってくださった読者の方々にご教示をいただいて、機会があれば、内容を改めたり、あるいは充実させたりして、いつそう役に立つ辞典に育てたいと考えている。

2016年4月

編著者

**bili lights** [医療俗] ビリ・ライツ

高ビリルビン血症 (hyperbilirubinemia) の乳児に対する光線療法 (phototherapy) として使われる蛍光 (fluorescent lights; bilirubin lights).

**binge drinking** (酒の) むちゃ飲み

アルコール依存症の初期段階. 飲酒を重ねて感覚がなくなるまで飲むかと思うと, 次にはしばらく禁酒をする. 食事が減り, 繰り返し嘔吐が起こる. 米国立アルコール乱用・依存症研究所 (National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism: 略称 NIAAA) が詳細な定義とデータを発表している.

**bingo brain** ビンゴ脳

タバコの煙が充満したビンゴゲーム場 (bingo hall) で長時間過ごした後, 一酸化炭素中毒 (carbon monoxide intoxication) になって起こる頭痛. *Canadian Medical Association Journal* 誌に 1982 年に登場した表現.

**biophysical profile** 生物物理学的プロファイル

胎児の呼吸様運動, 心拍数, 胎動, 羊水量, 筋緊張の 5 項目を超音波で測定すること. 略語は BPP.

**bird** [医療俗] バード

救急ヘリコプター (medical helicopter). ⇨ air ambulance; medevac

**birth center** パース・センター

合併症の危険性が低く, 入院の必要がない女性のための出産施設.  
□ スタッフに医師が含まれ, 危険性の高い出産も低い出産も扱うことのできる hospital birth center と, 危険性の低い出産だけを扱い, 医師が立ち会うことの少ない free-standing birth center の 2 種類に大別できる. birthing center とも言う.

**bishop's nod** [医療俗] 「司教のうなずき」

大動脈弁逆流症 (aortic regurgitation) で心拍動と同時に頭部がリズムカルに前後に揺れる様子.

**BIT** [医療俗] ビー・アイ・ティー

通過中のゲップ. 腹部 X 線写真で胃に見られるガス. burp in transit の頭文字.

結腸内に固まった状態の便を取り除くために使用される石けん水浣腸 (soapsuds enema).

**Clear!** クリアー!

「どいて!」「離れて!」。除細動器 (defibrillator) を使用する際に、周りのスタッフ全員に対して離れるように注意を促すかけ声。All clear! や、Everyone clear! などとも言う。

**clears** [医療俗] クリアーズ:「澄んだもの」

水、果肉のっていないジュースやゼリーなど。手術数時間前まで飲用が許される場合がある。

**clickers** [俗・米方言] クリッカーズ:「カチカチ音発生器」

入れ歯 (false teeth). かみ合わせると人工的なカチカチという音 (click) が出ることから。[米北部方言] では clackers とも言う。

**clinical nurse specialist** クリニカル・ナース・スペシャリスト

臨床専門看護師。看護学修士の学位を持った登録看護師 (registered nurse) で、看護の特定分野の高い知識と臨床技術を有する。略語は CNS。⇒ advanced practice nurse

**clip and strip** [医療俗] クリップ・アンド・ストリップ

clip は外科用ステープル (針) (surgical staples) を staple remover を使って取り除くこと、strip は皮膚接合用テープ (adhesive strips) [商品名] Steri-Strip (ステリストリップ) などをはがして取り除くこと。なお、縫合に外科用ステープルを使う器具を surgical stapler (外科用ステープラー) や skin stapler など呼ぶ。⇒ Steri-Strip

**CLL** [医療俗] シー・エル・エル

慢性低水準生活 (の患者)。chronic low-life の頭文字。急を要する疾病ではないのに病院の緊急救命室 (ER) にやって来るホームレス患者のこと。⇒ cockroach; curly toe; frequent flyer; groupie; regular; repeats; superutilizer

**Clomid** [薬・商品名] クロミド

排卵誘発薬 (ovulation stimulant)。米国 Aventis Pasteur 製。錠剤。処方薬。⇒ quality of life therapy

**closed-fist injury** 握りこぶし傷

① 中毒性紅斑 (erythema toxicum). 中毒性物質に対するアレルギー反応による皮膚の発赤のこと.

② 新生児に見られる一過性突発性発疹 (erythema toxicum neonatorum). ⇨ phlebitis

### **flesh-eating bacteria** [俗] 人食いバクテリア

劇症型溶血性レンサ球菌感染症. レンサ球菌による敗血症性ショック病態. 1987年に米国で最初に報告された. 日本での最初の典型的な症例は1992年に報告され, 毎年100~200人の患者が確認されているという. 発病から病状の進行が急激で, 発病後数十時間以内には軟部組織壊死, 急性腎不全, 成人呼吸窮迫症候群 (ARDS), 播種性血管内凝固症候群 (DIC), 多臓器不全 (MOF) を引き起こし, ショック状態から死に至ることも多い.

### **Flexeril** [薬・商品名] フレクサリル

筋弛緩薬 (muscle relaxant). 一般名塩酸シクロベンザプリン (Cyclobenzaprine hydrochloride). 米国 McNeil Consumer & Specialty Pharmaceuticals 製の処方薬. 米国 Alza Corporation の登録商標. ⇨ Norflex

### **flight of ideas** フライト・オブ・アイディアズ

観念奔逸 (観念). 思考過程の障害の一つ. とりわけ躁病 (mania) によく見られる. 考えが次から次へと飛んで, まとまりがなく, 話がまとまらなくなる.

### **flip a ruby** [医療俗] フリップ・ア・ルビー: 「ルビーを飛ばす」

出血 (hemorrhage) する. 宝石のルビー (紅玉) の色から.

### **FLK** [医療俗] エフ・エル・ケー

おかしい顔の子供. funny-looking kid の頭文字. 特に新生児室 (newborn nursery) で新生児を指して使われる表現. ⇨ NSA

### **FLK with GLM** [医療俗] エフ・エル・ケー・ウィズ・ジー・エル・ケー

美人の母親が付き添っているおかしい顔の子供. funny-looking kid with a good-looking mom から. 特に新生児室 (newborn nursery) で使われる表現. ⇨ GLM

### **float a swan** [医療俗] フロート・ア・スワン: 「スワンを浮かべる」

**heavenly blues** [俗]ヘブンリー・ブルース:「天国のブルース」

① 鎮静薬, 催眠剤として使われるフルニトラゼパム (flunitrazepam).

② 精神活性物 (psychoactive agent) としての朝顔の種 (種) (morning glory seeds). この種はリセルグ酸アミド (lysergic acid amide: 略語 LSA) [幻覚剤, LSD と同系] を含むために食べることがある. 単数形の heavenly blue (また heavenly sunshine) は LSD を指す. ⇨ roofies

**heavy chain disease** 「ヘビー・チェーン病」

手錠をかけられて緊急救命室 (ER) に運ばれてきた犯罪者の患者. 医学用語では「H 鎖病 (鎖病) [H = heavy chain の heavy の頭文字]」や「重鎖病」などと呼ばれる形質細胞疾患 [癌] のことを言う. この chain を「手錠」に読み替えてもじったもの.

**heavy hammer** [医療俗]ヘビー・ハンマー

特に強力な鎮痛薬 (pain killer).

**Heel Elevation Ataxia** [医療俗]ヒール・エレベーション・アタクシア:「ハイヒール運動失調症患者」

ハイヒールを履いてまともに歩けない女性. あたかも酔っ払った千鳥足のように見える. ⇨ roofies

**heel stick** ヒール・スティック

新生児の末梢血を足のかかとから採取する方法, heel puncture とも言う.

□ 動詞の stick には「静脈穿刺 (せん) (venipuncture) をする」の意味がある. ⇨ finger stick

**heel string** [米南部方言]ヒール・ストリング:「(足の) かかとの弦」

アキレス腱 (Achilles tendon).

**Heimlich maneuver** ハイムリック法

気管に食べ物などが詰まった場合にそれを取り除くために行う応急処置法. Heimlich の読み方は「ハイムリック」が一般的. 考案者である米国の外科医 Henry Jay Heimlich (ヘンリー・ジェイ・ハイムリック) (1920-) の名から.

**helicobacter pylori** ヘリコバクター・ピロリ菌

# 日本語索引

見出し語の訳語および解説中から、キーワードとなる日本語を適宜取り出して索引とした。

## あ

アイシー・ホット	199	アデロール	6
アイ・シャワー	136	アドヴィル	9
アイスクリーム頭痛	49, 199	アドエア	9
青色検査員	43	アドリアマイシン	8, 38
アキレス腱	187	アトロヴェント	25
悪臭除去	100	アトロベント	25
アクティベース	5	アナフィラキシー	26
アザクタム	27	アナフィラキシーショック	131
アザラシ徴候	347	アナフラニール	20
足治療医	426	アネクチン	20
亜硝酸アミル	31	アプレゾリン	22
アズトレオナム	27	アホウドリ	12
アタヴァン	25	アマンタジン	16
アタバン	25	アメーバ	49
頭が悪い	382	アモキシシル	19
悪化	60	アモックス	19
悪化する	173	アラウェー	12
圧力鍋(釜)	309	アリセプト	23
アディ	7	歩く時限爆弾	419
アダラル	6	アルコール依存者	134
		アルコール依存者更生会	1
		アルコール依存症	14, 39, 59, 121, 388, 402, 430



## 編著者紹介

### 山田政美(やまだ まさよし)

1937年生まれ。米国カンザス州立カンザス大学院修了。島根大学名誉教授、島根県立大学名誉教授。

専門：英語学・社会言語学。

主な著書：『英語語法あ・ら・かると』(文建書房, 1973), 『現代アメリカ語法—フィールドノート—』(研究社出版, 1982), 『アメリカ英語の最新情報』(研究社出版, 1986), 『アメリカ英語文化の背景』(研究社出版, 1991), 『現代アメリカ英語を追って』(こびあん書房, 1993)。

主な辞書：『事典 / 危険な英語』(共著) (荒竹出版, 1981), 『現代アメリカ名詞辞典』(共著) (荒竹出版, 1983), 『英語スラング辞典』(訳編著) (研究社出版, 1989), 『英和商品名辞典』(編著) (研究社, 1990), 『現代英米語用法事典』(共著) (研究社, 1995), 『英和メディカル用語辞典』(共著) (講談社インターナショナル, 2000), 『医療英語がおもしろい—最新 Medspeak の世界—』(共著) (医歯薬出版, 2006), 『英和ブランド名辞典』(共著) (研究社, 2011)。

### 田中芳文(たなか よしふみ)

1961年生まれ。岡山大学大学院教育学研究科修士課程修了。島根県立大学教授。

専門：英語学・社会言語学。

主な訳書：『アメリカ新人研修医の挑戦 最高で最低で最悪の12ヵ月』(西村書店, 2004), 『看護師(♀)がいなくなる?』(西村書店, 2005), 『アメリカ精神科 ER 緊急救命室の患者たち』(新興医学出版社, 2007), 『だから看護教育は楽しい—アメリカのカリスマ教師たち』(日本看護協会出版会, 2007), 『外科研修医 熱き混沌(♂)』(医歯薬出版, 2008), 『ドクターヘリ 救命飛行(??)』(医歯薬出版, 2009), 『新生児集中治療室 NICU』(医歯薬出版, 2015), 『看護師として生きる 自分の選択』(西村書店, 2016)。

主な辞書：『英和メディカル用語辞典』(共著) (講談社インターナショナル, 2000), 『医療英語がおもしろい—最新 Medspeak の世界—』(共著) (医歯薬出版, 2006), 『英和ブランド名辞典』(共著) (研究社, 2011), 『小学館 オックスフォード英語コロケーション辞典』(分担翻訳執筆) (小学館, 2015)。